会長退任に寄せて

豊口 祐一（昭和34卒）

私は平成20年7月に辻兵吉前会長がご逝去された後を受けて、同年8月17日開催された同窓会総会において、第9代会長に選任され、会長を務めることになりました。

私は会長就任にあたり、同窓会活動の活性化を目標に掲げ、1期目は主として、同窓会組織を整備することに意を用いました。そのためには、各常置委員会の活動をよく知ることが必要と考え、各委員会にはほとんどと言っていいほど出席し、その活動内容を把握することに努めました。また、同窓会の会則、諸規程の見直しや新しい規程（顧問・参与に関する規程、財務規程）の制定を行い、それまでアバウトだった会の運営を変えようとしました。さらに、これからの情報化時代を見据え、ホームページ委員会を発足させました。そして、できるだけ若く熱心な方々に常置委員をお願いするようにして、より活発な活動ができるように心掛けました。その効果は少しずつ表れてきたと思っております。

私は平成23年6月25日の総会で会長に再任され、2期目の会長を務めることになりました。この期間の思い出として忘れてはならないのは、なんといっても、母校秋田高校が平成25年9月1日に創立140周年を迎えたことです。当日は多数の同窓会員の方々にもご参加いただき、午前中に秋田県民会館で在校生主体のもとに厳かに記念式典が開催され、午後は同窓会の主催する記念祝賀会が秋田キャッスルホテルで行われました。祝賀会は大いに盛り上がり、成功裏に終わったことは喜ばしい限りです。

140周年の記念事業として、同窓会では母校の教育振興に寄与すべく教育振興基金を創立することにし、会員の皆様に募金をお願いしました。募金目標を3千万円と定めました。当初は集まりが芳しくなく、目標額に達するかどうか心配しておりましたが、最終的には秋高同窓会の底力を見せつけ、目標額の3千万円を遥かに超える募金を頂戴し、深く感謝いたしております。

私にとって母校創立140周年を迎えたことのほかに忘れられない思い出としては、平成23年9月28日に昭和21年3月に学窓を巣立った方々に対して行われた卒業式です。在校生の見守る中、65年後の卒業式を学校に行っていただき、校長先生から卒業証書が授与され、正式な卒業式が挙行され実に感動的でした。卒業式の後、秋田キャッスルホテルで「昭和21・22年秋中卒業の同期会」が行われましたが、出席された先輩の皆様がお元気なことに驚かされました。

私は図らずも6年間会長を務めることになりましたが、会長在任中、同窓生の皆様から多大のご協力をいただいたことに対し、深く感謝申し上げます。また、校長先生をはじめとする母校の教職員の方々に一方ならずお世話になったことに対し、心から御礼申し上げます。

母校校長に伊藤成年氏 トップ交代3年ぶり

平成26年度の県教委定期人事異動で母校の校長が交代した。3年間にわたって母校運営のかじ取りを担った高橋貢校長（昭和47卒）が定年により退任、後任には秋田県総合教育センター所長から伊藤成年氏（昭和49卒）が就任した。また、同時に事務長も松田治氏から畠山傳儀氏に代わった。母校関係の教職員の異動は次のとおり。

教職員人事異動

退職	校長	高橋　貢	
	主幹兼事務長	松田　治	
転出	十和田高　教頭	片岡　俊仁	（教頭）
	秋田西高事務長	後藤　進	（事務長補佐）
	角館高(定)　教頭	小松　弘樹	（教諭）
	男鹿工業高	吉原　東吾	（教諭）
	男鹿工業高	近藤　周平	（教諭）
	秋田中央高	森元　弘毅	（教諭）
	秋田北高	萩庭千加子	（養護教諭）
	新屋高	三浦　竹寛	（技能主任）
	湯沢高	山﨑　洵	（臨時講師）
転入	校長	伊藤　成年	（県総合教育センター所長）
	主幹兼事務長	畠山　傳儀	（県教育庁義務教育課主幹）
	教頭	猪股　清子	（秋田北高）
	教諭	物部　長幸	（秋田南高）
	教諭	佐藤　栄幸	（金足農業高）
	養護教諭	浮田　元子	（秋田商業高）
	事務長補佐	吉岡　智弘	（県医務薬事課副主幹）
	技能主任	長澤　健三	（男鹿工業高）
	臨時講師	渡部　拓	（能代高）

国文祭記念全国支部交流会開催へ

東京秋田県人会は10月4日の国民文化祭開会式にあわせ、秋田新幹線こまちの臨時列車1編成を貸し切り秋田に集います。これには秋田高校東京同窓会の会員も30人程度が参加予定です。

東京同窓会からはこの機会に秋田県内外の各支部と交流をさせてほしいという申し出があり、運営委員会で検討した結果、10月5日（日）の夕刻から国文祭記念全国支部交流会を開催する方向で調整することになりました。

総会で承認を得た後に詳細を詰め、7月中に各支部に案内を発送する予定です。どうぞご期待ください。